

○JAアルプス管内のコシヒカリの出穂期は、7月31日と平年より1日程度早くなりました。
出穂期以降の20日間の気温は平年より高く推移しています。
○刈遅れと急激な乾燥を防止することで、胴割米のない高品質なアルプス米に仕上げ
ましょう。

1 コシヒカリの適期刈取り



【YouTube】
16 水稻収穫作業のポイント

胴割米が1番
困るんだよね

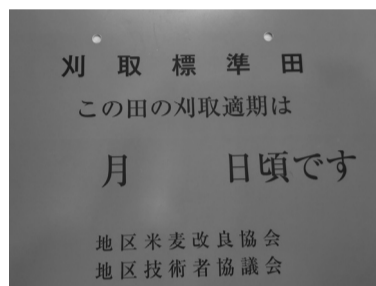
- ・収穫時期は籾の黄化程度で判断し、籾黄化率80%(高温年)を目安に
刈取りを始め、適期内に刈取りが終了するよう努めましょう。
- ・砂壤土や枯上がりの早い圃場から刈り始め、刈遅れによる
胴割米の発生を防ぎましょう。



< 胴割米 >

【コシヒカリの出穂期別刈取り始めの目安】

出穂期	刈取り始め 籾黄化率 80%(高温年)
7月28日	9月1日頃
7月31日	9月5日頃
8月3日	9月8日頃



地域により成熟期に差があるため
必ず「刈取適期表示札」を参考に
して下さい。

○刈取り作業の注意点

- ・刈取りは、籾が乾いてから開始しましょう。
- ・扱胴回転数、扱き深さ等を適正に調節しましょう。
- ・ヤケ米発生防止のため、収穫後4時間以内に乾燥機に入れ送風しましょう。
- ・コンバインの各部につまりや故障が発生した場合、必ずエンジンを止めて対処しましょう。

2 乾燥調製作業について

【YouTube】
17 乾燥作業のポイント



【YouTube】
18 調製作業のポイント

- ・乾燥調製作業については、営農情報第7号をご確認下さい。

3 カントリーエレベーターやライスセンターからのお知らせ

- ・平日利用助成、遠隔地利用助成、早生・晩生利用助成、大口利用助成の各種利用助成制度を
活用しましょう。
- ・コシヒカリの平日利用助成の設定日は、9月12日(月)~16日(金)及び、高温年と
なっていることから9月5日(月)~9日(金)を追加します。

4 生産記録簿の提出について

- ・JA米の要件は、生産記録簿の提出が必須条件です。
- ・安心安全な農産物を生産するため、生産記録簿の記帳徹底を
推進しています。
- ・安心安全な農産物の出荷を継続するためにも、生産記録簿は
必ず記帳し提出して下さい。

生産記録簿は、出荷時や乾燥調製施設利用前にJAに提出して下さい

5 土づくり対策



【YouTube】1土づくり

高品質・安定生産に向け、この秋「土づくり」に取り組みましょう！



「秋の土づくり運動」 9月15日～11月15日

健全な土は、高品質アルプス米の生産に必要不可欠です。次年度の米づくりのため、秋からしっかり土づくりを行いましょ。

(1) 土壌改良資材の継続的施用

J Aアルプス管内の土壌の特徴は、土壌pHが低く、ケイ酸分が不足しています。不足分を供給できる土壌改良資材を施用しましょう。

【土壌改良資材の標準施用量と施用効果】

資材名	10a当たり施用量	ケイ酸分(%)	アルカリ分(%)	特徴
粒状ケイカル	200 kg	30.0	45.0	ケイ酸を供給して茎や葉が強くなる倒伏やいもち病に対して抵抗力が増す
元 気	100 kg	24.0	32.0	ケイ酸、苦土の他、有機質15%入り
シリカロマン	100 kg	25.0	45.0	ケイ酸の他、鉄、リン酸、苦土が一度に供給可能
シンキョーライトP	100 kg	(66.1)	—	天然ミネラルを含み、根張り促進、保肥力の改善

(2) 秋耕しの実践

- ・ 稲わらやもみ殻のすき込みを、気温の高い10月中に行いましょう。
- ・ 秋耕後は排水溝を設置して、圃場の排水を促し、腐熟を促進しましょう。
- ・ 貴重な有機資源である稲わらやもみ殻は、必ず土壌に還元しましょう。
- ・ 秋耕しをした上で春耕しをすることにより、深耕が可能になります！



(3) 有機物の施用

- ・ 有機物の施用により、土壌の腐植を増やし、保肥力を高めましょう。
- ・ 稲わらのすき込みに加え、特に腐植の少ない圃場では堆肥を積極的に施用しましょう。
- ・ 堆肥確保が困難な地域では、発酵鶏ふんの施用や緑肥作物の栽培・すき込みを行いましょ。

【緑肥作物（冬作物）】

作物名	播種時期	10a 当たり播種量
ヘアリーベッチ	水稲刈取り後～10月中旬	3～5 kg
ヘアリーベッチ +ライ麦	水稲刈取り後～10月中旬	ヘアリーベッチ：2 kg ライ麦：5～6 kg
レンゲ	水稲刈取り後～10月中旬	3～4 kg

【堆肥施用の目安（秋施用の場合）】

資材名	10 a 当たり施用量
発酵鶏ふん	100～150kg
牛ふん堆肥	1～2 t
豚ふん堆肥	1～2 t

<緑肥作物栽培上の注意点>

- ヘアリーベッチ・レンゲは肥料不要です。ヘアリーベッチ+ライ麦の場合は、ライ麦生産確保のために、窒素5kg/10aを全面施肥してください。
- 初期の湿害に弱いので、排水対策を実施してから播種しましょう。
- 播種時期が遅れると生育量の確保が困難になるため、出来るだけ早い時期に播種しましょう。

○「ごま葉枯病」 ～葉にごま粒状の病斑がでます～

- ・ ごま葉枯病の発生は、土壌条件や稲体の栄養条件と関係が深く、生育後半に稲体活力が低下した場合や、土壌養分である「ケイ酸」、「カリ」、「鉄分」などが少ない圃場で多発します。
- ・ 今年度発生が見られた圃場では、積極的に「土づくり」に取り組み、ごま葉枯病の発生抑制に努めましょう。



～農作業機械で道路を汚したら、必ず掃除しましょう～